

宗教は奇蹟なり

宗教と奇蹟は切っても切れない関係にある事は、昔から幾多の文献によっても明かである、もし奇蹟のない宗教でありとすれば、それは最早宗教とは言はれない、何となれば奇蹟は神が造るのであって、人間の力では一個の奇蹟も造られ得ないからである、故に奇蹟のない宗教は宗教としての存在価値はない訳である、ただ、形式だけが如何に宗教的であっても、それは宗教的価値を喪失しているといってもいい。

以上の意味に於いて偉大なる宗教程奇蹟が多く顕はれる事は当然である、奇蹟とは換言すれば予期もしなかった利益が現はれる事である、それによって衷心から信仰心が湧起し入信し不幸から救はれる、之が眞の宗教でなくて何であろう、百の理論よりも一の事實に如かない事は今更言う必要はない、今日の世相は、敗戦による結果とは言い乍ら、社会悪の激増は勿論、特に将来の日本を担うべき青年層が不健全なる思想に禍いされ混迷裡にある事實は寒心に堪えないものがある、その原因を衝けば唯物思想を金科玉条として教育された結果で、此誤謬に目覚めない限り到底此問

題は解決され得る筈がない、然らば唯物思想を打破するにはどうしたらよいかといふと勿論宗教心に目覚めなければならぬが、それには根本として見えざる処の神を認めしむる事は常に吾等が唱導する処である、とすれば其方法は唯だ奇蹟あるのみである、奇蹟とは勿論人間業では不可能とされたものが可能となり理論では絶対解釈が出来得ない事実を眼の前で見せられるとすれば如何なる疑惑も一遍に煙散夢消するのは当然である。

故に標題の如く「宗教は奇蹟であり奇蹟は宗教であり」と言い得るのである、随而奇蹟によって神の存在を認識せし

め、唯心思想を育くむ以外、平和日本建設も社会悪追放も、予期の成果は挙げ得る筈はない。

人文史上、本教位奇蹟の多い宗教は未だ見聞した事はあるまい、此意味に於いて世界の大転換期に当って、唯心的魂を喪失した世界に対し奇蹟の息吹きによって、眠れる魂を揺り動かすのが本教の目的である。

万能の神は、観世音菩薩又の御名光明如来の御手を通じて、自由無碍なる御活力を駆使し、多々益々奇蹟を示し給い、本教を機関として、救世の大業を行はせ給いつつあるのである。

（光十二号 昭和二十四年六月十一日）